

会 議 録

会議の名称		第 30 回つくば市公共交通活性化協議会		
開催日時		平成 29 年 2 月 14 日（火） 10：00～12：00		
開催場所		つくば市役所 2 階 203 会議室		
事務局（担当課）		企画部総合交通政策課		
出席者	委員	石田委員，塙委員（代理），勝家委員（代理），武田委員，平井委員，磯委員，瀬戸下委員，松橋委員，吉本委員，澤島委員，武藤委員，後屋敷委員（代理），小林委員，浅野委員，石川委員，石濱委員（代理），沼尻委員（代理），江戸委員，木田委員，一色委員，柳橋委員，小原委員，小田倉委員，小峰委員		
	その他	なし		
	事務局	つくば市企画部総合交通政策課		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	3 名
非公開の場合はその理由				
議題		1 平成 28 年度第 3 四半期つくバス・つくタク実績について 2 公共交通に関するアンケート調査について 3 平成 29 年度つくバス・つくタク運行計画について 4 広域連携バス運行計画について		
会議録署名人		—	確定年月日	平成 年 月 日
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 議題 (1) 平成 28 年度第 3 四半期つくバス・つくタク実績について (2) 公共交通に関するアンケート調査について (3) 平成 29 年度つくバス・つくタク運行計画について			

	<p>(4) 広域連携バス運行計画について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
<p><審議内容> ○：委員，●：事務局</p> <p>1 平成 28 年度第 3 四半期つくバス・つくタク利用実績について</p> <p>○広域連携バスの運行の桜川市や筑西市の評価はどうか。</p> <p>●10 年ほど前に廃止されたバス路線沿線の住民の「つくば市に移動したい」という要望を踏まえて実証運行を開始したが、現在は、市内の移動が多数を占めている状況である。現在、アンケートを実施しており、6 月以降に結果が出てくる予定である。</p> <p>2 公共交通に関するアンケート調査について</p> <p>○IC カードの利用実績で定期券を除く IC カード利用率は、つくば地区で 10 月が 38%，11 月が 45%，12 月が 52%と毎月利用率が向上している。関東鉄道運行エリアで最も IC カード利用率の高い取手地区の 55%に追いつき、追いぬく勢いである。IC カード導入の当初の目的である「キャッシュレス」と「定時性の確保」は達成しているのではないかと感じている。</p> <p>また、つくバス・つくタクともに利用者が増加していることは非常によいが、資料 2-1 の 13 ページで利便性の向上を感じている方の割合が低下している。要因などは把握しているか。</p> <p>●現在確認中である。公共交通の利用頻度などとの関係を見ながら、確認していきたいと考えている。</p> <p>○資料 2-1 の 24 ページで、IC カードの導入で「便利になった」という回答が多く、市民の方に理解頂けており、よかったと思う。ただ、あくまでアンケート結果であり、回答者も変わっているため、少しの変化に一喜一憂せずに、傾向を確認していくことも重要である。市の取組みが市民の方に概ね理解頂けているのではないかという印象を受けた。</p>	

○つくタクのアンケートで、利用方法を知っている方などの割合が昨年度と比較し減少しているが、アンケート方法の違いによるものなのか。

●基本的には、昨年度と同様の方法で対象者を抽出しているため、今年は偶々利用されていない方からの回答が多かったのではないかと考えている。自宅登録時に利用方法の説明をしているが、強化していく必要があると考えている。

○資料2-1の17ページと25ページで、運行本数や定時性の面で市民と実際のバス利用者で評価に開きがあるという印象を受けた。現在の運行状況で遅れが大きい路線などはあるか。

●道路事情により、朝夕に遅れが発生している路線はある。状況を確認しながら、ダイヤ調整等で満足度を上げていきたいと考えている。

○利用者側からみると、ある1日の遅れで何かに間に合わない事態が発生すると、遅延の印象を持ってしまう可能性もある。

○県外からの通勤者で、朝のバスの混雑を避けるために時差出勤をしている職員がいる。朝の時間帯も混雑せずに通勤できるような対応を検討してみてはどうか。また、若手の中では「つくばは交通が不便」という方もいる。市民を対象にしたアンケートだが、市外からの来訪者や転居してきた方の意見なども確認してみてはどうか。

○資料2-1でつくタクを利用できない場合の代替手段でタクシーの割合が大きく減少している。要因などがわかれば教えて頂きたい。

●次回までに確認する。

○警察としては、高齢者の事故対策として、運転免許自主返納を推進している。高齢者の話を聞くと、返納後、交通の足が無くなる不安感が大きい印象を受けている。つくば市では、運転免許返納者に対して、つくバス・つくタクの利用券を配布しているが、実際にどの程度使われているか、使った方の感想はどうか、など返納した方の状況が確認できれば、今後の運転免許返納に向けて活用できる。

●基本属性は調査しているので、合わせて確認する。

○私自身、バスを利用したことはなかったが、一度利用すると定時性も高く、遅い時間まで運行もしていた。利用して初めてわかったことであり、一度利用してもらうことが大切である。

○北海道の十勝バスでバス路線沿線の住民にヒアリングをした結果、乗り方がわからない、行き先がわからない、という意見がほとんどであった。案内の強化やお試し切符を配布した結果、利用者は増加しており、一度乗ってもらうなどの施策も効果が高いのではないかと考える。

●学生も対象になるのではないかと考える。来年度、関係者と協力しながら検討していきたい。

○自治体によっては、転入者に対してお試し切符を配布するような例もあるようだ。ぜひ検討してみてはどうか。

○地域公共交通網形成計画の評価は、概ね達成が見込める印象である。一方で、満足度や市民の積極的参加意向などは、イベントや学生への働きかけも重要になってくるのではないかと考える。

3 平成29年度つくバス・つくタク運行計画について

○つくタク車両へのドライブレコーダーの設置は有効な手段だが、すでに設置している車両もある。公平性に留意頂きたい。また、画像データの著作権に関しては、セキショウキャリアプラスと協議していきたい。

車両は、旧式車両が多いが、バリアフリー車両も増えてきている。購入の際は、国交省に加えて自治体の補助がある場合もある。つくば市でも検討頂きたい。

○地域のシルバークラブ連合会などの場での公共交通の利用方法の広報なども有効な手段になるのではないかと考える。また、バリアフリーの車両があれば、ぜひ導入を検討頂きたい。

●5月に説明会を開催し、個別に意見をお聞きした。それを参考に、交通手段や移動方法に関する説明資料を作成して配布している。

○北部の北条地区に統合された学校が新設される。また、北部地域の高齢者は、

北条地区の医療施設に通院するケースが多い。このため、北部地域に関しては、北条地区を起点に行動が可能な公共交通体系の検討をお願いしたい。

- 前回、つくタクの予約キャンセルに関する検討の必要性が議論された。現時点で予約キャンセルが改善していないのであれば、つくタクの運行計画の中に検討事項として含めた方がよいのではないか。

4 広域連携バス運行計画について

○桜川便の上大島地区に新設するバス停への停車予定はあるのか。

- 桜川市と協議はしたが、桜川市から、上大島地区にバス停留所を設置しないとの回答を得ている。

■ その他

○最後に報告のあった牛久愛和総合病院の考え方は重要だと思う。つくタクの利用状況として、資料3-6にあるように、利用回数は変わらないが、実利用者数が減少してきており、利用者の固定化が進んでいる。税負担、公平性、福祉などの観点から、市民の意向を踏まえて今後の展開を議論していくことが重要である。

○つくバス車内でのアナウンスで民間企業の宣伝を行い、収入にするなどの工夫もあるのではないか。

○北部シャトルの花畑は、利用者は多いが夜は暗くて危険な印象を受ける利用者もいると聞いている。関鉄バスの二の宮などのバス停留所は、広告費でバス停環境を整備しているため、検討してみてもどうか。

- バス待ち環境は重要事項であると認識している。検討していきたい。